

profile

三井住友アセットマネジメントの情報発信とメディア戦略を手掛ける「営業推進部 情報戦略ユニット」に2008年4月の立ち上げ時より参画。特に、同社が力を入れている中国やアジアの情報発信に努めている。同社の情報戦略ユニットは、コンテンツの作成から様々なメディアへの発信および出演に至るまですべてを完結するなど、情報発信に関するプロダクションのような機能を担っているユニークな存在として業界で注目を集めている。2008年に入社後、このユニットを立ち上げ、現在リーダーを務める宗正彰氏（営業推進部 シニアマネージャー）による毎朝のラジオの生放送（エフエム東京・クロノス「三井住友アセットマネジメント・マーケットレポート」）の内容は、アップル社の「i-Tunes」ポッドキャストランキングで全国上位を維持する人気コンテンツ。マーケット初心者からプロの機関投資家に至るまで、彼らが手掛ける「マーケットレポート」のファン層は厚い。

杉元孝史（すぎもと・たかふみ）

三井住友アセットマネジメント(株)営業推進部 情報戦略ユニット
アソシエイト



中国株(中国株投信)の現状

● Interview

「中国株は、今後徐々に勢いを取り戻していく」

中国での中国株の状況を理解したところで、今度は日本における中国株の見方を見ていこう。中国株に詳しい三井住友アセットマネジメントの杉元氏にお話をうかがった。これを読めば、日本人として中国株に同接すればいいかが見えてくることだろう。

三井住友アセットマネジメント(株)
営業推進部 情報戦略ユニット

アソシエイト

杉元孝史

↓
——現状、中国株に投資する日本人の状況は？

中国経済の成長は目覚ましいといった認識が多い反面、まだ中国についてはよく分らないといった印象を持たれている方も多くいらつしやるようです。ただし、ご年配の方には中国経済がちょうど日本の高度成長期のような段階（2008年には1人当たりGDPが3000ドル超え、一般に同水準は自動車購入などを通じて消費活動が加速度的に成長する節目と見られる）にあることから、潜在的な成長力を想像していただきやすい傾向があります。また、現役層の方もビジネスの上で中国企業との付き合いが過去数年間で格段に増えたという方が多く、投資家のうち多くの方は、各種の関連報道に加えて、中国の強い成長力を肌で感じられたことが投資の動機になつていようです。また、近年は海外旅行で上海などの大都市に行かれ、その活気を見て投資の自信を深めたという方も多くいらつしやいます。

——日本における中国株の購入方法をおしえてください。

基本的には中国は海外から本土株への投資を他の先進国ほど自由に開放していません。日本で中国株を購入するにはいくつかの方法があります。最も早期からあった方法は、海外投資家向けに設けられたB株市場に投資するやり方です。ただし、B株市場は株式市場の設立直後に設けられた実験的な市場としての側面が強く、人気は下火となつています。

中国株に投資するよりメジャーな方法として、香港株式市場に上場する中国関連銘柄に投資するやり方が挙げられ